



いつものメンバーのようになりました

## 炊きだし 5月11日(土)曇りのち小雨

9:00 北仙台教会に集合・準備。 12:00 五橋公園 炊き出し 14:00 元寺小路教会 反省会

お出での方40名。内女性ゼロ(ただし同居の女性2名分持ち帰り)。HS さんも来ました。年中同じ格好なのですぐ分かりました。この日は今にも雨の落ちてきそうな空の「機嫌」との競争でした。通常とは逆パターンで衣類提供をしてから、豚汁・おむすび配りになりました。生きるためにプライドを捨てて配給の列に並びに来る人に交じって、生活保護を受けている元ホームレスがおり反省会で話し合いの話題になりました。元ホームレスの方を出入り禁止や排除するのではなく、係として何か役割を付けられたらいいなと思います。テント生活者からは蚊取り線香の要望があり、ちょっとびっくりものでした。

同好会からは3年生2人と新人の1年生3名が参加しました。びっくりしたのはその1年生が落ち着いていたことでした。普通にスムーズに参加していて、反省会の時には「たのしかったです」と言っただけ、たいしたものだと思います。



衣類整理の新人。黙々と。

- 初めてでとまどうこともありましたが、みんなで協力しながらたのしく活動できたのでよかったです。ホームレスの方々も「美味しいね」などと喜んでいてくれて、その姿を見てとてもうれしかったです。次回はさらにてきぱきと動けるように頑張りたいです。(1年)
- 初めてのボランティアだったのですが、思ったより楽しかったです。あまりてきぱきと動けなかったのが、次回頑張りたいです。そしてたくさんの人の役に立ちたいです。(1年)



採寸してたんでゆきます



写真でにっこりポーズ。でも、3年生は全体計画作りを任命され、実はまっています。

- 久しぶりに参加したが、前回に比べホームレスの人が少なく感じた。ボランティアに外国人も参加していて、たくさん優しい人がいるんだと思った。ホームレスの人たちもおもしろい話してくれたりしてすごく親近感がわいた。今回がいったんは最後の参加となるが、機会があったらまた参加したい。(3年)



この世には、にぎる人の数だけおにぎりの形があり



おむすび渡し係です。



セット品です。

- 前回は遅刻してしまい仕事があまりできませんでした。今回は最初から仕事をする事ができて、こんなに準備が大変なんだと感ずることができました。機会があったらまた参加したいです。(3年)



雑貨コーナーです。



「どうぞ、それいいですよ」

- 良いことした気分になりました。ボランティアの方がみんなやさしく安心しました。反省会のアイスもおいしかったです。初めてだったので動きがはやくなかったり、仕事があまくできなかったので、次の時はもっと考えてきぱき行動したいです。(1年)



予定では進路が忙しいから最後の参加記念のポーズ。  
それで笑顔、ではありません。さみしいのです。

献品： 高校職員から衣類を預かりました。小学校保護者からタオル箱セット・タオル・バスタオル・トレーナー上下・トレーナー・ジーンズ・米50g、2K、5K預かり、届けました。  
ありがとうございました。

(ボランティア同好会)

**夜回り** 5月8日(水) 18:50~21:10 晴 風寒し

20年来の友人から夜回り同行の申し出あり、教会で待ち合わせした。おむすび作りなどの準備に加わり、一緒に夜食後、二人で夜回り。国際センターの裏ベンチからスタートする。ここは10年以上通い声をかけているけれども本人はいつも寝たままで返事は返ってこない。だから顔は一度も見たことがない、と言うと、友人はびっくりしている様子。一つ一つのことに驚いていた。表ベンチは岩手のSkさん。「おじさん」声をかけると起きあがる。健康状態を聞く。土曜の炊き出しのお誘いをする。無料健康診断の話も伝えた。暖かいみそスープ2杯作り、友人が渡した。

「(おれは)寂しいなんて言っていられないなあ」友人が車中でつぶやいた。鼻水をすすっている。彼は事情あって今一人暮らし。最近会う度ごとに、苦しい胸の内をぶつけてきていた。夜回りでホームレスの起居の状態を初めて見る人には、当たり前なのが驚きとなる。「寒い日はどうするの?」「やっぱりベンチに寝てる。」「ベンチって外の?」「ベンチは家の中にはない。外のベンチ。1月・2月の厳寒の時も、同じように外のベンチで皆寝てる。」「雨とか降ったら?」「大体そのまま寝ている。ひどいときは雨のあたらないところで朝まで待つ。で、暖のとれるところへ昼間移って、ジッと過ごす。」

西公園のSさん。声をかけると、シートがめくれ上がって上半身を出した。友人は圧倒されていた。「おっちゃん、鍋出して。」残りのみそスープをドバドバ入れた。Sさんはずっと炊き出しに来るのを拒んでいて、と車中で友人に説明をした。ひどい目にあつたからとしか言わなかったが、本当だったと思う。来ない間、寒い冬場は、何度も無銭飲食やあんパン1個の窃盗で牢屋に入って過ごしてきた。半年くらいして公園に戻っても、炊き出し誘いには拒み続けた。それが、去年の暮れから欠かさず炊き出しに来るようになった。「心を開いたんだね」友人が言った。

「すごい活動だな、大学時代からやってんの?」「うん」「歴史あるな」「たぶんおれは、人とのつながりを断って死と隣り合わせでいる人に関わることで、自分と向き合ってきたのだと思う。」

公園のトイレの中を一緒に見て回るが、不在。身障者用のトイレに電気がついていて明るい。声をかけたが返事がない。

メディアテーク1階。中年男性がひとり荷物二つ置いて手すりに寄りかかっている。目があつた。視線そらす。意を決して声をかけると、応えてくれた。ホームレス歴1年半。炊き出しに来たことなし。いったんは拒否したおむすび・ゆで卵を「それじゃああずかります」と受け取ってくれた。

「こういうこと(活動)していると人生観変わるな。」「別に偉いこととかでなく、そうしないではいけない切迫した自分がいたんだと思う」人そのものがかかえる、さみしさとは次元の違う孤独。孤独ともいえない、つねにひとり。

わたし自身が、今夜の夜回りの数日前に、この友人によって、こころをひらく、という体験を思いがけずしたばかりであった。ふたりで居酒屋にいたとき、友人はいつもの苦しさから、「おれは子どもの時からずっと傷ついてきた。それが癒されないと、前へ進めないと気付いた。」と話し出した。聞きながらフツとわたしも口が開いて、「…おれは本当には人を信じたことがない気がする。」と言うと、「…知っていた。そう思っていた、ずっと。」そこで気が楽になったのか、思いがけずこんなことを話した。「…おれのような疎くて迂闊なものでも、50年も経ってやっと気付くこともある。最近やっと気付いたことがある。6歳の時に母親が死んだ。農業で。目の前で苦しみながらのたうち回っていた。」「事故で?」「うん。死んだら、口元がいつもの笑顔に戻っていた。死ぬこと生きることばかり考えるおれは、6歳の時から時間が止まったままの自分がある。それに気付くのに、おれには50年必要だった。」

夜回りは毎月第2水曜日におこなっています。炊き出しはその週の土曜日です。いずれも、カトリック正義と平和仙台協議会(代表渡辺清)がおこなっている活動に、ボランティアで参加させていただいています。興味のある方は、ご連絡いただいたら、ご一緒いたします。

( 高橋 )